

# 風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

I コリントの信徒への手紙 1 : 18

【説教要旨】

**福音を告げしらせる**

総会が開かれました。私たちの教会の主題聖句は、「恐るな、語り続けよ。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ」(使徒言行録 18 : 9 ~ 10 節)

先週から衆議院選挙が始まりました。現実は、世界が力によって、大国がエゴを丸出しの危険な状況あります。

終末時計の記事が Yahoo! ニュースがありました。「米誌『原子力科学者会報』は 1 月 27 日、人類滅亡までの残り時間を示す「終末時計」を、過去最短の 85 秒に設定したと発表。

主な要因は、核軍縮条約の期限切れに伴う核兵器の脅威や気候変動の加速です。特に AI (人工知能) については、偽情報の拡散や信頼の崩壊を招く『情報のアルマゲドン』を引き起こし、他分野の危機対策を困難にしていると警告。」

そういう中での今回の衆議院選挙は、私たちがどういう国家を作るかという大切な選挙です。小さな個人でも、私たちは、こういう世界の中で、生きづらさを感じてはいないでしょうか。

しかし、そういう中で私たちキリスト者は、どう宣教、伝道するかということです。パウロは「なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるため」というのです。まさに私たちはパウロの言葉のように「福音を告げ知らせるため」に努力することです。時が良くて悪くても

福音を告げ知らせることです。さらにパウロは「しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。」と言います。「言葉の知恵」と「キリストの十字架」と対立させます。人間の知恵はどこまでいっても自己主張、自分さえよければよいとエゴです。しかしキリストの十字架とは私たちを救うために私たちの罪の痛みの極みに降りて、十字架に架かる自己犠牲です。ここに神の愛が示されたのです。福音を告げるとはイエス・キリスト、神の自己犠牲です。イエスの福音宣教命令、「洗礼を授ける」ということと対立するがごとく敢えて、「洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためである」とパウロはいったのでしょうか。

「パウロは『わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。』伝道とは十字架のキリストを伝えることであり、単にクリスチヤンの数を増やすことではないとも考えられています。『広さ』を対象として、『多さ』を獲得するより、十字架のキリストを宣べ伝えることこそ伝道であると理解しているのです。」「洗礼」というサクラメントが持つ、危険性です。洗礼は、神の、イエス・キリストの自己犠牲によって与えられた恵みであり、イエスの弟子とされることです。しかし、同時にクリスチヤンとなり、信者が増えるというこの世的な出来事が起きます。教会に帰属するということです。そして、このとき起こることはこの世の知恵が支配するのです。いかに信者獲得するか、獲得することによって、私たちの力を誇示し、相手を支配し、闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。あなたは深い喜びと／大きな楽しみをお与えになり／人々は御前に喜び祝ったということを奪い取り、再び闇の中を歩ませるということです。だから敢えてパウロは、極めて刺激的な表現を使い、福音の本質が見失われないように私たちに語っているのです。

カトリック信者の若松英輔氏は、「いま、『成長』のお話で、別な角度から考えてみたいことがあります。それは、宗教と『拡張』の問題です。宗教が力を持つと言うときに、拡張して

いる規模によってその勢力を測ることができます。もちろん、それは一つの視座であるとは思います。ただ、宗教が本当の意味で深まっていくことを考える時に、拡張することが『深まること』とは必ずしも一致しないことがあると思うのです。

いま重要なのは、宗教の側が深まる方向に舵をきれるかどうかではないでしょうか。世界でさまざまな拡張の現象があると思うのですが、それが本当に深く持続的なものかどうかを考えてみなくてはならない。また、規模としては縮小しているけれども、縮小することによって初めて自分たちの至らなさ、つたなさ、あるいは傲慢さが見えてくることもあると思います。」と言っていますように福音を告げるとは、福音を深めるということも大事になります。教会はどこまでも自己保存的、自己主張の集団であってはいけない、どこまでいってもイエス・キリストのみ心、他者に仕える自己犠牲です。私たちが洗礼を授ける、福音を告げるということは自己拡張、自己主張であってはならないのです。私たちはどこまでいっても自己犠牲をもって洗礼を、福音を伝えることです。自己主張、利己的であってはいけないです。他者に仕えていくことです。

この世は、数は力で動いています。しかし、わたしはこのことに生きない。十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力ですとある十字架、神の愛の力に生きるのです。神の愛こそ力であり、世の知恵から解放され自由とされるのです。ルターは次のようにキリスト者を表現します。「キリスト者はすべてのもの上に立つ自由な主人であって、誰にも服さない。 キリスト者はすべてのものに仕える僕であって、誰にでも服する。」

「恐れるな、語り続けよ。わたしがあなたと共にいる。時が良くて悪くとも神と、イエス・キリスト共に福音をこの甘木の地で告げ知らせていきましょう。」

参考本：「80歳から創めるキリスト教」上林純一郎 日本基督教団出版局、「問われる宗教とカルト」若松英輔他 NHK出版新書、「コリント人への第一の手紙講解」北森嘉造 日本基督教団出版局、「キリスト者の自由」徳善義和訳 新地書房

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



衆議院選挙が始まった。どうみても党利党略としか感じられない選挙で興ざめである。

が、急激に変化していく世界にあって、この日本という国をどういう方向に向けるのか大切な選挙でもある。その時代の状況に流されずよくよく考えて投票するということをそのことをよく心に刻むべきだと思う。

私たちはもっと選挙に関心をもって、投票率を上げたいものである。

「万軍の主よ 正義をもって人のはらわたと心を究め、見抜かれる方よ。わたしに見させてください。エレミヤ 20:12」。

この預言者エレミヤの祈りが私たちの祈りとならなければいけないと思う。

祈りを強めていこう。

## 園長・瞑想？迷走記



先日、子どもが裸足で生活していることが、将来、どのような良い影響を与えるかということを研究している靴屋さんに会った。

我が日善幼稚園は裸足である。いつからそうなったのか分からぬ。それではいけないとその方に叱られた。なぜ、裸足を続けているのか、勉強し、よく知らないといけないと。確かに幼稚園にある習慣、行事など今まであったから、支障をきたさない限り考えてみない。意外と今までだったのでなんの疑いもなく続けていることがあるのかもしれない。落ち着いて、一つ一つと向かい合っていくと良い出会いが起こるのかもしれない。慣れ切らないということだと思う。

ちなみに脳の活性化、骨を作っていくなどが良い点が多いが、一方、怪我などがリスクにある。特に地震多い日本で逃げる時のリスクは高い。

## 日毎の糧

聖書：15:5 金を貸しても利息を取らず、罪を犯さない人にそむいて、わいろを取らない。このように行なう人は、決してゆるがされない。

詩編 15:5



### ルターの言葉から

もし世の中の人たちがみな10%を請求していても、教会関係の施設なら、もっと厳格に法を守り、恐れつつ4あるいは5%をとるようにすべきである。彼らは世の人々の光となり、良き模範をしめさなければならないからである。 （「商取引と高利」）

『ルター著作集 第1集 5』マルティン・ルター 松田智雄、魚住昌良訳 聖文舎  
**金利**

聖書は一貫して、利子をとってはいけないと教えてています。しかし、現代の経済は資本を貸し、利子を取るという投機で動いています。ルターの時代、フッガ一家が資本を集中させ、その資本をもって、商業を活性化し、高金利でさらに富を集中させるという時代でした。資本を使い神聖ローマ帝国の皇帝の選挙を左右させ、そしてローマ教皇庁の金庫番となり、免罪符の集金を担った。

ルターはこの時代を生きつつ、また彼自身、新興する中小資本家に属し、聖書とは違う独自の少ない利子を取ることは許した。これが後に今の資本主義を生み出す契機になった。しかし、ルター自身はそんなことを考えていたのではなく、高金利で社会を動かすことへの憤慨から高金利を批判したにすぎない。高金利によって、隣人を傷つけるような行為は、キリスト教徒として相応しくないことを示し、法に従うことは遵守すべきだが、何よりも実際にあたって、愛による判断をすることを強く求めた。

しかし、現代の自由主義経済の中で人々はひたすら利潤を求め、資本を投機に回し、人が人を支配して行く社会にあって、私たち自身が、もう一度、聖書の言葉にもどり、実際の場にあって愛による判断が求められているように思う。

祈り：日々の生活が愛によって判断できるよう心を強めてください。

## 甘木通信

### エルサレムの王、ダビデの子、コヘレトの言葉。



上記の言葉は、特に「エルサレムの王、ダビデの子」の言葉は、コヘレトの言葉に権威を持たせるために書き加えたかもしれない。

「コヘレトは言う。なんという空しさ　なんという空しさ、すべては空しい。」というコヘレトは、正統なヘブライ信仰からすれば、違うものである。しかし、同時にヘブライ人に自分の内にもう一つの自分がコヘレトの言葉であった。すべてが空しい、このもう一つの自分と対話をすることを止めなかった。だから、自分の空しいという感じる自分の弱さと向かい合う方が健全だと考えたヘブライ人の知恵がコヘレトを旧約聖書に最後には残ったのである。

長く生きてきたと思う。この長さは神からすると束の間ですが、私からすれば長く、そして、しんどいものです。この頃、激変する世にあって、追いついていかない自分がいます。もう、良い、この辺で人生を降りたい。よくここまで生きて来たと、もう十分だと思う。振り返れば何が残った。何も残らない。なんという空しさ、空しさと。こういう弱い自分がいつも私の中にいる。この自分と誠実に向かい合うと、人間にはどうすることもできないことに強く感じ、気づかされる。だから、もう一つの自分でこれを押さえなければなりません。それが、神を信じることを与えてくれた自分だと思う。しかし、正直、生きるにしんどい自分が毎日ある。

(甘木日記)土) 信仰の朋、K 伝道師の葬儀。まっすぐに信仰の道を生きた人だった。私の時代の信徒はみな歳をとった。葬儀後、九州、甘木へ。  
日) 甘木教会の礼拝、教会総会。月) ルーテル羽村幼稚園の施設評価委員会、事務作業。火) 教会の用事をすませて、午後の飛行機で久留米。到着し幼稚園に電話をすると留守電。無事に幼稚園も終わったようだ。水) 職員会議、園だより、教会の事務作業。木) 松崎保育園での職員の聖書の学び、子ども礼拝、甘木教会へと。ブラジル時代の同居人だったS君が来る。多くの同居人がいた。一緒に交流。金) 日善幼稚園へ。夕刻、遠足の下見でキッザニア福岡に行く。今週も動き、出会いがあった。

## おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）キリストの賞を得るために最後まで走りぬいたまっすぐに信仰の道を生きた人だった信仰の朋、K 伝道師の葬儀で刈谷教会へ。刈谷の街も変わったが、私の時代の信徒はみな歳をとって変わった。名古屋の駅でどうしても食べたかった「山本本家の味噌煮込みうどん」を食べる。お世話になっている方にお土産に「山本本家の味噌煮込みうどん」、「守口漬け」を購入。九州、甘木へ。日）甘木教会の礼拝、教会総会。夕方、明日のルーテル羽村幼稚園の施設評価委員会のために東京に。月）ルーテル羽村幼稚園の施設評価委員会、事務作業。火）午後の飛行機まで教会の用事をすませて、お世話になった方のために四谷にいたので、

(味噌煮込みうどん) いつも



のように30分は並んで「若葉」の鯛焼きを購入。施設評価委員会委員の方の幼稚園にお礼に鯛焼きを届け、久留米へ。到着したとき幼稚園に電話をすると留守電。無事に幼稚園も終わったようだ。ホッとする。水）購



(四谷・イグナチオ教会) 入した礼拝のための蠟燭、いつも一所懸命働いてくださる園長夫妻の甘さを届けるために鯛焼きをもって松崎保育園に。頭にエネルギー補給を。午後から日善幼稚園職員会議、「園だより」を英語、タガルグ語にしていると20時を越して園から出る。でもAIの翻訳機能があるのでここまで出来る。どうしてもAIと向かい合う世界がある。帰り、教会の事務作業。気づくと1時半。木）松崎保育園へ1月最後の職員の聖書の学び、子どもも礼拝。移動の時、忙しい中を園長から小郡の駅、甘木教会へ自動車で送つていただき大変に助かる。木曜日には甘木聖和幼稚園に園長がおられ、守ってくださり感謝である。みんなで保育園、幼稚園、教会を守ってくださる。ルーテル羽村幼稚園とzoom会議。SMSは便利であるが、生活が変えられていく。今週は、「80歳から創じまるキリスト教」、「共生の神秘」という本を読む。「70歳からのキリスト教」もあるので本屋さんに注文する。朋遠方より来る。ブラジル時代に居候していたS君が病気見舞いに来て来る。独特なキャラクターの人格者で話していると心の底から元気づけられる。善き朋をいただいた。金）夕刻、日善幼稚園の年長のディキャンプの下見で職場体験できるキッザニア福岡に行く。きっと子どもたちは喜んでくれるだろうと思う。行き帰りの車の中での職員と子どもについて会話するのも楽しい時間。今週も病人は走った。